

概観

【内政・社会】

- ・ 1日, メーデーに際し, 社会党が恒例のデモ行進を実施し, 数千人が参加。
- ・ 4日, 第3次ボリスフ内閣発足1年の節目にボリスフ首相がNOVAテレビにインタビュー出演。
- ・ 19日, ブルガリアの復興のための選択 (ABR) (議会外勢力) の新党首としてルメン・ペトコフ元内務大臣が選出。
- ・ 24日, ブルガリアの教育・文化及びスラブ文字の日の式典が各地で執り行われ, 全国で13万人の市民が列を成し, 聖キリル・聖メトディ兄弟の偉業に敬意を表した。

【外 政】

- ・ 17日, ソフィアにおいてブルガリアEU議長国最大の会合であるEU・西バルカン首脳会合が開催され, ソフィア宣言が採択された。
- ・ 21-22日, ラデフ大統領が訪露し, プーチン露大統領及びメドベージェフ露首相と会談した。また, 30日, ボリスフ首相が訪露し, 同様に両者と会談した。
- ・ 23日, ザハリエヴァ副首相兼外務大臣は, アルゼンチンで開催されたG20外相会合のマージンで, 王毅中国国務委員兼外交部長と会談した。

【経 済】

- ・ 3日付欧州委員会による経済予測が発表され, 2018年, 19年の経済成長をそれぞれ3.8%, 3.7%と予測した。
- ・ 8日, ボリスフ首相は, トラックによる国際運送業者の代表と面会し, トラック運転手の労働規制強化がなされるEU指令改正案 (モビリティ・パッケージ) の内容に反対し, 運送業者の立場を支持する意図を表明した。
- ・ 10日, 中国の国家核工業集団 (CNNC) 関係者がペトコヴァ・エネルギー大臣と面会し, ベレネ原発建設計画への参入に改めて関心を示した。

この月報はブルガリア各種メディアの報道等を取りまとめたものであり, 在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

内政・社会

1. 政治

◆メーデーに際する社会党によるマーチ

▶ 1日, 社会党 (BSP) は, メーデーに際する毎年恒例のデモ行進を組織。当日集結した数千人の人々は, 聖アレクサンダル・ネフスキー寺院から閣僚評議会まで行進を行い, 汚職と貧困反対を

訴え, 第3次ボリスフ内閣総辞職を要求した。ニコヴァBSP党首は, ブルガリア国内に蔓延する汚職と貧困の実態を訴え, ラデフ大統領がその講演の中で述べたとおり (月報4月号), 「今こそプロジェクトのスイッチを入れ, ブルガリアに明かりを戻さなくてはならない」等と, 集まった人々に訴えた。

◆ボリスフ首相就任1年インタビュー

▶4日、第3次ボリスフ内閣発足から1年の節目に際し、ボリスフ首相は民放テレビ局「NOVA」のインタビューに出演した。インタビューの概要は次のとおり。

▶「後悔と満足」

（過去1年の政府の業績の中で残念な結果となったもの、及び誇るべき結果となったものについて問われ）悔いが残るのは、イスタンブール条約（女性に対する暴力及びドメスティック・バイオレンスの防止に関する条約）を、国民に対し、欧州の大部分が同条約を批准していることにはそれなりの理由があることを示した上で、国民が納得する形で提示出来なかったことである。様々な力、特に政治的力が働き、イスタンブール条約の精神とは異なる方向の議論が行われることとなった。誇りに思うのは、対外債務を23億レヴァ縮小することに成功したことである。任期満了までに、対外債務をGDPの20%まで減らすことを目指す。

▶「ラデフ大統領」

自分（ボリスフ首相）の祖父は、馬車は常に、一頭よりも二頭で引く方が良いと言っていた。しかし、ラデフ大統領及び彼の側近は、馬車を一頭で引く方が良いと判断したようである。自分（ボリスフ首相）にとって大統領は常に国家統一の象徴であった。しかし、今の状況には、統一の影もない。大統領は、まるで彼の選出母体である社会党やMRFという2党の大統領であるかのように振る舞っている。

▶「解散の有無」

（解散選挙を実施しても社会党が勝てないことは）世論調査結果が示している。勝てない選挙を半年ごとに行うことは馬鹿げている。自分（ボリスフ首相）は2度選挙の機会を与えたが、2度とも、国民は自分達（GERB）に政権を託した。

▶「ジフコフ国家評議会議長とサクスコブルク元国王」

ジフコフ国家評議会議長の警護をしていた際、政治についてジフコフから何時間も聞く機会があった。サクスコブルク元国王も、ジフコフと同様、

歴史的事実や様々な逸話を多く話してくれた。これらの経験は、自分にとり、大変貴重なものである。（ジフコフ評議会議長とボリスフ首相との関わりを取り上げて批判する人々へ向けて）社会党などは体制が変わった途端にジフコフと距離を置いたが、自分（ボリスフ首相）は、ジフコフがただの人となった後も彼と話をした。彼が取り調べに行くための車さえ手配できなかった時、彼を送っていったのは自分である。

◆ブルガリアの復興のための選択（ABR）党首交代

▶19日、ブルガリアの復興のための選択（ABR）（議会外勢力）の第3回全国大会において、コンスタンティン・プロダノフ現党首に代わり、ルメン・ペトコフ氏（スタニシェフ政権（2005年～2009年）時に内務大臣を務める）が党首に選出された（591票中、賛成579、反対3、棄権9）。

▶ペトコフ新党首は、1995年から1999年までプレーベン市長を務め、第39回国民議会（2001年～2005年）において初めて国民議会議員を務める。スタニシェフ内閣（2005年～2009年）において内務大臣に就任するも、ジャーナリストに対する脅迫や職権乱用等につづる度重なるスキャンダルの後、2008年4月に辞任。

2. 社会

◆バラ栽培農家によるデモ

▶18日、カルロヴォ地方の200人以上の香料用バラの栽培農家が、バラの低い買い取り価格等に反発し抗議デモを行い、ソフィアブルガス間の道路を封鎖した。

▶栽培農家によれば、今年のバラの平均買い取り価格は、1.60～2.20レヴァ／キロであり、これは、例えば2016年の買い取り価格4.50レヴァ／キロ等に比べても大幅な値下がりであり、経費を賄うことが出来ず、破産しかねないという。

▶恵まれた天候の結果、今年のバラの収穫量は16,000トン以上と見込まれており、これは例えば2013年次の収穫高の約4倍である。なお、通常ローズオイル1キロの生産には、2-3トンのバラが必要とされる。

▶この抗議活動に関し、マノロヴァ・オンブズマンは、バラ栽培関係者が訴えるバラ蒸留所によるカルテルの存在等について競争保護委員会の調査委を要請した。ポロジャノフ農業大臣は、バラ及びエーテル性オイル製品全般に関する法案、及びバラ栽培農家に対する最低限の支援策を検討すると述べた。

◆ブルガリアの教育・文化及びスラブ文字の日

▶24日、ラデフ大統領出席の下、国立図書館前において、ブルガリアの教育・文化及びスラブ文字の日の式典が執り行われた。ラデフ大統領は、その挨拶の中で、無知を許してはならない、文字の読み書きを覚えることは無知との闘いの第一歩である等と述べた。

▶ヨトヴァ副大統領は、中世のブルガリアの首都であり当時の学問の中心地であったブルガリア北部のヴェリキ・プレスラフを訪問し、私達の文字と本こそがブルガリア国家を誕生させたのだ等と述べた。

▶全国で約13万人の市民が表に出て列を成し、聖キリル・聖メトディ兄弟の偉業に敬意を表し、1989年以降最大規模の市民の参加を得たスラブ文字の日となった。

3. 統計

◆「TREND」による世論調査結果

▶15日付当地日刊紙「24チャーサ」が発表した、世論調査会社「TREND」による世論調査結果は以下のとおり（調査期間：2018年5月2日～10日、調査対象：1009人）。

▶今回の世論調査において、オンブズマン（マヤ・マノロヴァ氏）が、大統領を抜いて、国家機関として支持率第一位となった。

1 西バルカン諸国のEU加盟

(1) 西バルカン諸国のEU加盟を支持するか
支持 61%
不支持 16%

(2) 各国毎のEU加盟に係る支持率

マケドニアのEU加盟	70%
セルビアのEU加盟	67%
モンテネグロのEU加盟	58%
ボスニア・ヘルツェゴビナのEU加盟	56%
アルバニアのEU加盟	45%
コソボのEU加盟	42%

2 国家機関別支持率

(1) 政府

支持 32%
不支持 56%

(2) 大統領

支持 63%
不支持 22%

(3) 国民議会

支持 24%
不支持 65%

(4) オンブズマン

支持 66%
不支持 14%

(5) 裁判所

支持 23%
不支持 60%

(6) ブルガリア正教会

支持 52%
不支持 21%

3 政党別支持率

GERB	22.8%
社会党(BSP)	19.1%
権利と自由のための連合(MRF)	6.4%
統一愛国者	5.3%
民主的ブルガリア	2.3%
ヴォリヤ	1.7%
改革派ブロック	1.3%

外政

1. 対EU関係

◆非公式EU国防大臣会合の開催

▶4-5日、ソフィアにおいて非公式EU国防大臣会合が開催された。

▶ボリスフ首相は、会合冒頭で、ブルガリアによる西バルカン諸国に関する取組の目的は平和であると述べ、平和の保持には強力な軍事力及び西バルカン諸国の統合を必要とするとした。同首相は、ブルガリアは軍事力の積極的な近代化及び能力向上を図っているとし、今後のブルガリアの軍事設備購入予算確保について言及した。また、NATO南翼の最も強力な軍事力であるトルコとの関係正常化が重要であるとした。

▶モゲリーニEU外務・安全保障上級代表は、共同会見において、17日にソフィアで開催されるEU・西バルカン首脳会合に言及し、同会合をEU及び西バルカン諸国が政治目的及び運命を共有する重要なサインと位置づけた。また、同代表は、非公式EU国防大臣会合の主要議題が、PESCOの新プロジェクト採用決定及び軍事力移動（ミリタリー・モビリティ）であったことを明かした。

◆非公式EU首脳夕食会の開催及びトウスク欧州理事会議長会見

▶16日、ソフィアにおいて非公式EU首脳夕食会が開催され、同夕食会に先立ち、トウスク欧州理事会議長が会見を行った。

▶EU28か国首脳による夕食会の主要議題は、米国のイラン核合意離脱決定に対するEUの対応、欧州からの鉄鋼及びアルミニウムの輸入に対する米関税に関する対応、及び在イスラエル米国大使館のテルアビブからエルサレムへの移転に対する欧州共通の立場であった。

▶夕食会前の会見においてトウスク議長は、イラン核合意からの米国の引き上げに関し、欧州共同戦線が必要であるとし、イランが合意を遵守する間は、リーダーたちが合意を遵守することを確認

したいと述べた。

▶トウスク議長は、米国が鉄鋼及びアルミニウムに対する新関税からEUを除外する意志がないことに関し、米国とEUは友人かつパートナーであり、米国の欧州製品に対する本関税は、国家安全保障をもって正当化することはできないと述べた。

◆EU・西バルカン首脳会合の開催

▶17日、ソフィアにおいてブルガリアEU議長国期間中最大の会合となるEU・西バルカン首脳会合が開催され、ソフィア宣言が採択された。会合後にトウスク欧州理事会議長、ユンカー欧州委員会委員長及びボリスフ首相が共同会見を行った。

▶トウスク議長は、西バルカンをテーマとしたテサロニキでの会合が開催されてから今日までの15年の時間は長すぎたとし、ゆえに2年後にクロアチアで再び会うことを決定したと述べた。同議長は会合において、西バルカン地域全体の欧州統合への相互コミットメントを再確認したと述べた。▶トウスク議長は、会合において、西バルカン地域内及び同地域との連結の改善方法について議論したとし、署名が行われた「ソフィア優先アジェンダ」は、現在進行している協力に新しいアジェンダを付加したものであると述べた。更に同議長は、連結性アジェンダはオルタナティブでも拡大の代わりでもなく、今日明日の時間を有効活用する方法であるとした。

▶トウスク議長は、16日の非公式EU首脳夕食会の内容に言及し、イラン核合意に関してイランが完全にコミットし続ける限り、EUは合意に留まることで全会一致したと明かした。同議長は、米国の鉄鋼及びアルミニウムの新関税について、米国が無期限の免除を決定した場合にのみ、EUは米国と貿易自由化について話す容易があるとした。また同議長は、技術革命への挑戦を表明し、EUはデジタル及びイノベーションへの注力を増大すると述べた。ユンカー委員長も会見において、イラン核合意と米国の関税に関し、トウスク議長と同様の見解を示した。

▶ボリスフ首相は、本会合では、西バルカン諸国

のEU及びNATO加盟に関する賛成・反対及び加盟時期に関して異なる意見を正直に述べるオープンな議論ができたとした。同首相は、西バルカン6か国の首脳による署名が行われたが、これは数年前であれば不可能であったと述べ、ブチッチ・セルビア大統領とサチ・コソボ大統領が握手をしたことも明かした。

2. 対バルカン諸国関係

◆歴史・教育問題に関するブルガリア・マケドニア学際的専門合同委員会の創設

▶9日、閣僚評議会は、ブルガリア・マケドニア善隣友好条約第8条第2項にある歴史・教育問題に関する学際的専門合同委員会のブルガリア側の共同委員長、構成及び委員を承認した。

▶ブルガリア側の合同委員会は、ザハリエヴァ副首相兼外務大臣及びディミトロフ元駐マケドニア・元駐セルビア大使を共同委員長、カイチェフ・ソフィア大学准教授を副共同委員長とし、その他5名の委員から構成される。

▶本合同委員会は、ブルガリア・マケドニア間の実際的问题を提起・協議する。年1回の定期会合を開催するが、いずれか1か国の要求により、不定期開催も可能である。最初の会合は6月末にソフィアにおいて行われる予定である。

◆ボリソフ首相とザーエフ・マケドニア首相のローマ及びバチカン訪問

▶24日、ボリソフ首相は、ザーエフ・マケドニア首相とともにローマの聖クレメンテ教会地下に安置される聖キリルの墓を訪問した。聖キリルはキリル文字の創始者の一人と位置づけられている。両首相が両国共通の歴史的出来事とともに記念するのは、2017年のサムイル王の献花、ゴツェ・デルチェフ墓参に続いて3回目。

▶両国の代表団には聖職者が参加しており、ブルガリアとマケドニアの聖職者は、聖キリルの墓前で別々に典礼をとり行った。両首相は、両国の典礼終了後とともに墓前で祈りを捧げた。その後、両首相は聖マリア・マッジョーレ教会をともに訪

問した。

▶25日、ボリソフ首相は、ブルガリア代表団を率いてフランシスコ法王に謁見した。ボリソフ首相とフランシスコ法王は30分間会談し、同首相は法王に対し、バルカン諸国周遊の際のブルガリア訪問招請を行った。ボリソフ首相の謁見直後にザーエフ首相も法王に謁見した。

◆ボリソフ首相のクロアチア訪問

▶26日、ボリソフ首相はプレンコビッチ・クロアチア首相の招待により、クロアチアを訪問し、同首相と会談した。今次会談の議題は、西バルカン諸国とEU加盟国との格差、及び西バルカン諸国間格差を縮小するためにブルガリアEU議長国期間中に開始したプロジェクトの前進についてであった。

▶ボリソフ首相は会見において、両国はバルカン地域の安定国であるとし、より一層協働できるはずであると述べ、2020年前半のEU議長国を務めるクロアチアが、ブルガリアがEU議長国としてバルカン地域の平和強化のため注いできた努力を支持してくれることを願うとした。

▶プレンコビッチ首相は、EU・西バルカン首脳会合は、クロアチア及びブルガリアの近隣諸国に対し、改革の継続、交通網、デジタル、及びインフラ連結を同時に行うというメッセージになったと述べた。またプレンコビッチ首相は、2020年までに両国がともにシェンゲン領域に参加することが共通目標であると述べた。

3. 対露関係

◆ラデフ大統領の訪露

▶21-22日、ラデフ大統領はロシア側の招請によりロシアを訪問し、メドベージェフ露首相及びプーチン露大統領とそれぞれ会談した。

▶21日、モスクワにおけるメドベージェフ首相との会談後の会見において、ラデフ大統領は、今次訪問を途切れがちであった二国間関係の突破口であると定義した。同大統領は、最近になってブルガリア政府は対露関係に対する無気力さから脱

し、ベレネ原発計画復活への情熱を持ったとした。
▶ラデフ大統領は、ロシアの天然ガスを黒海経由でブルガリアに直接供給する計画の再検討を呼びかけた。両者は貿易・経済関係について話し合い、メドベージェフ首相は、二国間関係を新たなレベルへ動かす観点から、ボリスフ首相の訪露への期待を表明した。

▶22日、ソチで行われたプーチン大統領との会談において、ラデフ大統領は、近年途切れがちであったハイレベル対話の再開は、経済、エネルギー、文化等あらゆる相互関心分野において大きな意味を持つとした。また同大統領は、ブルガリアはEU・ロシア対話に協力していくと述べた。

▶プーチン大統領は、ラデフ大統領の今次訪問は、両国が共有する歴史的瞬間の一つであるブルガリアのオスマン帝国解放140周年を記念したものであるとし、ロシア・ブルガリア関係再開に向けた良いシグナルであるとした。同大統領は、今後の二国間経済・貿易関係の可能性は大きく、続きはボリスフ首相と議論するとした。

◆ボリスフ首相の訪露

▶30日、ボリスフ首相はロシアを訪問し、プーチン露大統領及びメドベージェフ露首相とそれぞれ会談した。今次訪露には、ドンチェフ副首相、ゴラノフ財務大臣、バノフ文化大臣、ペトコヴァ・エネルギー大臣及びアンゲルコヴァ観光大臣が同行した。両者の会談は、2009年、2010年に続き3回目。

▶プーチン大統領との会談は2時間以上に及んだ。会談冒頭でプーチン大統領は、長い間会談を行っていなかったが、このたびボリスフ首相が招請に応じてモスクワを訪問したことを歓迎するとし、ブルガリア解放140周年及びキリル文字・文化の日という両国の国民を緊密に結びつける2つの祝日に言及した。

▶ボリスフ首相は、クレムリン訪問の機会を得られたことに謝意を表明した。同首相は、安全保障及びテロ対策において両国は良好な協力関係にあるとし、観光及び農業分野におけるより一層の連

携を呼びかけた。

▶会談後の共同会見においてプーチン大統領は、ブルガリアは欧州及びバルカン諸国におけるロシアの重要なパートナーであるとし、露企業のブルガリアにおける投資は石油加工、農業、建設業及び不動産業において積極的であること等に言及した。

▶ボリスフ首相は、トルコ・ストリームに関し、2本目のパイプラインはブルガリアまで到達し、ロシアから150億立方メートルの天然ガスが輸送される予定であるとした。更に同首相は、ブルガリアの目的はガス輸送を担い、ガス分配網から外れないことにあるとし、ブルガリア及びロシアは欧州委員会とともに欧州のプロジェクトとしてバルカン・ガスハブの規格を定めることになるとした。

▶プーチン大統領は、トルコ・ストリームに関し、29日にエルドアン・トルコ大統領がブルガリアへの支流を持つことに同意したとし、現在、半分完成している2本目のパイプラインがブルガリアへ向かうことになると述べた。またプーチン大統領は、ブルガリアが安定し、欧州への分配拠点と見なされるようになるなら、更にもう1本のパイプラインについて話し合う用意があるとした。

▶プーチン大統領は、ブルガリアのベレネ原発建設計画に関し、ロシアは同原発の建設に戻る用意があるとした。両者は、ロスアトム社とコズロドゥイ原発への核燃料供給、及びコズロドゥイ第5、第6号基の延命についても話し合った。

▶ボリスフ首相は、ベレネ原発はすでにブルガリアが原子炉の支払いを済ませており、原子炉2基と土地の使用を可能としているので、政府保障無しでの民間投資を模索していると述べた。

4. 二国間外交

◆ファン・デア・ベレン・オーストリア大統領のブルガリア訪問

▶3日、ファン・デア・ベレン・オーストリア大統領はブルガリアを訪問し、ラデフ大統領及びボリスフ首相とそれぞれ会談した。また、両大統領

は、当地において開催されたブルガリア・オーストリア・ビジネスフォーラムに出席した。

▶ラデフ大統領との会談の主要議題は、EU共通安全保障・防衛政策、常設構造的協力（PESCO）、EU防衛基金、移民・難民問題、欧州共通庇護システム、ドナウ戦略、対露関係、ブルガリアEU議長国等であった。

▶ラデフ大統領は、次期EU予算において結束政策のための基金が削減される可能性に懸念を示し、結束及び社会的格差の是正なくしては欧州が分裂するリスクがあると述べた。両大統領は、対露関係及びトルコ情勢について意見を交換した。

▶ボリスフ首相とファン・デア・ベレン大統領は、バルカン情勢、バルカン諸国の安定、交通・デジタル連結及び経済成長の見通しについて意見を交換した。ドナウ戦略及び二国間貿易・経済関係も議題に上がった。

◆ブルガリア・オーストリア・ルーマニア大統領会合の開催

▶4日、ドナウ川沿いの都市ルセにおいてブルガリア・オーストリア・ルーマニア非公式大統領会合が開催された。ラデフ大統領、ファン・デア・ベレン・オーストリア大統領及びヨハニス・ルーマニア大統領が出席した。

▶本会合の議題は、EUの将来、多年度財政枠組、欧州安全保障、英国のEU離脱及び地域協力であった。ファン・デア・ベレン大統領は、欧州安全保障及び多年度財政枠組みにおける3か国の立場は類似していると指摘し、オーストリア及びブルガリアは、EU加盟を目指す西バルカン諸国の擁護者であると述べた。

◆ボリスフ首相の「カール大帝」国際賞授与式出席

▶10日、ボリスフ首相はドイツのアーヘンで開催された「カール大帝」国際賞授与式に出席し、メルケル独首相及び同賞受賞者であるマクロン仏大統領とそれぞれ会談した。

▶メルケル首相は、西バルカン諸国は容易でない

テーマであるが、ボリスフ首相は大変良く健闘しており、今後も同テーマの仲介者であり続けるべきだとし、ボリスフ首相の貢献を高く評価した。

また同首相は、国際運送業者に関するEU指令改正案（モビリティ・パッケージ）に関するブルガリアの懸念に理解を示し、すべてのEU加盟国が許容できる解決を探し出すべきとの見解を示した。

▶ボリスフ首相は、マクロン大統領に対し、ブルガリアで問題となっているモビリティ・パッケージについて提起し、今後電話会談を行い、より詳細に話しあうことで一致した。

▶ボリスフ首相は、ドラギECB総裁とブルガリアのユーロ圏加入について話し合った他、ポロシェンコ・ウクライナ大統領とも会談し、ミンスク合意について意見を交換した。

◆ラホイ・スペイン首相のブルガリア訪問

▶15-16日、ラホイ・スペイン首相（当時）は、ボリスフ首相の招待により、ブルガリアを訪問し、ボリスフ首相との会談後に共同会見を行った。

▶ラホイ首相は、ブルガリアEU議長国は、間違いなく成功した議長国のうちの1つであると賞賛した。同首相は結束政策に関し、ボリスフ首相を支持するとし、同政策は欧州統合の主要な柱として継続されるべきとの見解を示した。

▶ラホイ首相は、中東の不安定化及び米国のイラン核合意離脱について懸念を表明し、EUはこの点において建設的役割を果たしたいとした。ウクライナに関し、同首相はウクライナの主権を支持するとした。

▶ラホイ首相は、スペインはコソボ未承認を理由に17日のEU・西バルカン首脳会合に出席しないことを記者から問われ、スペインは西バルカン諸国の発展・安定に貢献するあらゆる手段を支持するとし、同首脳会合において承認される予定の宣言をスペインが支持できる形にしたボリスフ首相の努力に謝意を表明した。

▶ボリスフ首相は、西バルカン諸国についての進捗及び今後の目標について説明し、欧州第4、8、

10回廊、鉄道、港及びデジタル・インフラ構築は優先事項であると述べた。また同首相は、コソボを承認しなくとも、スペインがこれらの努力を支持することを望むとした。

◆ザハリエヴァ副首相兼外務大臣と王毅中国国務委員兼外交部部長との会談

▶23日、ザハリエヴァ副首相兼外相は、アルゼンチンで開催されたG20外相会合のマージンにおいて、王中国外交部部長と会談し、7月上旬にソフィアにおいて開催予定の第7回「16+1」首脳会合について話し合った。

▶王部長は、中国はブルガリア、西バルカン諸国及び中・東欧諸国におけるより多くの中国企業の投資を促進したいとの考えを明かした。同部長は、「16+1」首脳会合は大きな成功をおさめられるだろうとし、ブルガリアは中・東欧諸国における中国の信頼できるパートナーであると述べた。

▶ザハリエヴァ大臣は、17日にソフィアで開催されたEU・西バルカン首脳会合について説明した。同大臣は、ブルガリアは欧州とアジアの架け橋であるとし、ソフィアでの「16+1」首脳会合は、近代的な道路、鉄道、送電線、及びガス接続管を必要とするバルカン地域の発展に多大な貢献をするだろうと述べた。

◆ボリソフ首相のウクライナ訪問

▶26日、ボリソフ首相は、ポロシェンコ・ウクライナ大統領の招待によりウクライナを訪問し、同大統領と会談した。ブルガリア首相のウクライナ訪問は14年ぶり。ボリソフ首相は、フロイスマン・ウクライナ首相とも会談した。

▶ボリソフ首相は、すべての国がミンスク合意を遵守することにより、ウクライナは危機から脱することができるだろうとし、交渉を通じて平和が達成されることを望むとした。

▶ボリソフ首相は、ブルガリア人コミュニティの権利について言及し、ウクライナ在住ブルガリア人マイノリティに属する個人が母国語を学習し、母国語で教育を受ける権利を保障するとの宣誓が

4月下旬に署名されたことを歓迎するとした。

▶ポロシェンコ大統領は、ウクライナの主権・独立・領土保全、及びEU加盟国との間での査証緩和及び経済的結びつきに対するブルガリアの支持に謝意を表明した。同大統領は、2018年は両国の外交関係樹立100周年という特別な年であることに言及し、7月9日に開催されるウクライナ・EU首脳会合におけるブルガリアの支持を頼りにしていると述べた。

◆ハン中国農業部部長のブルガリア訪問

▶28日、ハン中国農業部部長はブルガリアを訪問し、ボリソフ首相と会談を行い、ポロジャノフ農業・食糧・森林大臣とともにプロヴディフのシェンジェン越境eコマース協会連絡オフィス開所式に出席した。

▶ボリソフ首相との会談の主要議題は、農業分野における協力進展であった。同分野におけるパートナーシップ進展は、7月はじめにソフィアで開催される「16+1」首脳会合におけるハイライトの一つである。

▶両者は、近年の農業における二国間関係は積極的になりつつあり、ソフィアにおける首脳会合で特定の協定につながることを期待するとした。ハン部長は、ボリソフ首相と中国首脳との良好な関係が二国間関係の発展に寄与していると、ブルガリア政府が「16+1」イニシアティブの下に諸計画を活性化させることへの期待を表明した。

▶ハン部長は、ポロジャノフ大臣とともにシェンジェン越境eコマース協会連絡オフィス開所式に出席した。同連絡オフィスは、「16+1」イニシアティブに参加する国々の農産物及びその他製品の流通センター及びeコマース・パビリオンに関わる業務を行う。このプラットフォームは、中国と中・東欧諸国及び西バルカン諸国との間にeコマースの可能性を開くものである。

5. その他

◆ガザ地区の状況に関するブルガリア外務省声明

▶15日、ブルガリア外務省はガザ地区における抗議活動及び状況の深刻化に関し、以下のような声明を発出した。

▶ガザ地区における抗議活動の進展、及び増加しつつある子供を含む犠牲者・負傷者について、大きな不安及び懸念をもって見守っている。双方に対し、現在の状況を抑え、和平プロセス再開の条件を作るために、迅速かつ決断ある行動を呼びかける。

▶エルサレムの地位に関する問題及びその他の論争の解決は、中東和平プロセスの枠組みにおける

イスラエル・パレスチナ間の直接交渉への道を模索する以外にないと、我々は深く確信している。

▶ブルガリアはEU加盟国として、2017年12月のEU理事会の結論及び国連安全保障理事会の関連する決議に従い、2か国の根本に関わる紛争の解決に到達することを支持することで、中東カルテットを含む地域的・国際的パートナーとして関わり続ける。

経 済

1. マクロ経済

◆欧州委員会による2018年春の経済予測

▶3日、欧州委員会による2018年春の経済予測が発表され、ブルガリアの2018年、19年のGDP成長率をそれぞれ3.8%、3.7%と予測した。2018年冬の経済予測で、それぞれ3.7%、3.5%とされていたのを上方修正したことになる。

▶ブルガリアの経済は引き続き力強い成長が見込まれている。輸出の拡大は見込まれないものの、内需が主要な成長の原動力となると見られ、賃金の上昇と雇用の拡大が内需の拡大に繋がるとしている。また本年は強い個人消費がインフレに繋がることが予想されており、労働市場の好調は今後も続くが、賃金上昇と失業率の低下が伴うものになるとのことである。

▶雇用の拡大が見込まれるが、2018年及び19年には労働力の制約から、拡大幅は落ち着くことになる。失業率は2017年の6.2%から18年の5.5%、19年には5.3%となることが予想されている。2017年の一般財政黒字はGDPの0.9%となるが、これは公的投資の予想よりも少ない利用が原因とされている。2018年及び19年には0.6%となる予想である。

◆2018年第1四半期の月額平均賃金は1077レヴァ

▶15日の報道によれば、国家統計局は、2018年第1四半期の国内月額平均賃金が17年第4四半期から1.6%下がった1077レヴァであったことを発表した。最も賃金が下がった業種としては、不動産業(12.1%)、教育(11%)、卸売・小売等(7.1%)とされている。

▶また17年第1四半期と比較すると平均賃金は7.1%上昇しており、最も賃金が上がった業種は、鉱業・採石(14.4%)、教育(12.2%)、建設(10.5%)となっている。

▶2018年第1四半期において、最も月額賃金の高い業種は、ICT(2584レヴァ)、金融・保険(1801レヴァ)、電気ガス・エアコン関連(1721レヴァ)となった。

◆ブルガリアのユーロ圏加盟までの道のり

▶23日、欧州委員会のドンブロウスキス副委員長は、ブルガリアのユーロ圏参加について、新たな別の基準として、ブルガリアが欧州銀行同盟に加盟すべきことを示唆した。同氏は、欧州では金融危機における教訓として、公的財政だけでなく、民間金融セクターの安定性も重視すべきであるとしつつ、ERM-2加盟へのブルガリアの姿勢を歓迎し、ブルガリアを支援する意図を表明した。

◆次期EU基金の規模

▶30日付け国内報道によれば、欧州委員会のカタイン副委員長とクレトゥ地方政策担当委員は、

欧州結束政策のための2021年から27年までの7年間のブルガリア予算が、14年から20年までの7年間と比較して7.58%増えて約100億ユーロとなる見込みと発表した。

2. 経済政策, 産業

(1) エネルギー関連

◆ギリシャとの天然ガス相互接続管入札手続

▶1日, ギリシャとの天然ガス相互接続管建設のプロジェクト会社であるICGB社は, 相互接続管の設計, 供給, 建設を行う入札手続の詳細の発表を行ったとの報道がなされた。本件入札の価格は1億4500万ユーロと見込まれており, 建設期間は18か月となっている。

◆ベレネ原発建設計画への中国企業の参加

▶10日, 中国の核工業集団(CNNC)関係者がドンチェフ副首相及びペトコヴァ・エネルギー大臣と面会し, ベレネ原発への投資について改めて関心を示した。ドンチェフ副首相は, 本件プロジェクトの実施は, 関心のある投資家同士の競争になるとしつつ, 政府保証や政府が長期買電契約を結ぶ意図がないことを改めて明らかにした。

▶またブルガリア側はCNNC関係者に対し, ブルガリアが購入した原子炉等は製造者の指示に沿って適切に保管されていると明らかにし, エネルギー省が原子炉等の設備を利用できる最善の方法を検討しているとした。CNNC側は投資家の選定手続に参加する意思があることを改めて伝達した。

◆ベレネ原発計画に対するエネルギー省の立場

▶14日, ペトコヴァ・エネルギー大臣は, 「アトム・エキスポ」フォーラムに出席するために訪問中のロシア(ソチ)で会見し, 国民議会が政府に対してベレネ原発に対する投資家の選定手続のマネートを与えるのであれば, 本年末までに選定手続を開始することが可能との見解を示した。また同日午前中, ドブレフ国民議会エネルギー委員

会委員長もテレビインタビューに答え, 政府が求めるのであれば国民議会が政府にマネートを与えることが可能とした。

▶またペトコヴァ大臣はソチでフランスのフラマトメ社(Framatome)社のフォンタナ代表と面会した。同社はブルガリアとの協力に関心を示しており, ペトコヴァ大臣はベレネ原発計画についてブリーフをしたとのことである。

▶16日, ペトコヴァ大臣は閣僚会議後の記者会見で, ベレネ原発計画を市場原理により進めるつもりであると発言した。閣僚会議ではペトコヴァ大臣の動議に基づき, プロジェクトの復活について議論を行ったとのことである。その際にはNEK(エネルギー公社)の資産となっている原子炉等を別会社で運用することになり, その手続は本年中に開始される見通しとなった。

◆ペトコヴァ・エネルギー大臣とガスプロムとの会談

▶15日, ペトコヴァ・エネルギー大臣は, ロシア訪問中, ガスプロムのミラー会長と面会した。両者はこれまで40年間協力している天然ガス分野での更なる協力について議論し, ブルガリアによる地域のガス供給インフラの拡大の可能性について協議した。

▶ミラー会長は, トルコ・ストリーム計画について現状を説明し, これに対してペトコヴァ大臣からブルガリアとトルコの間でのガス輸送管建設の進捗状況について説明した。また両者は, 次回の経済・科学・技術協力合同委員会の一環として開催される天然ガスセクター協力会合の見通しについても議論した。

◆セルビアとの天然ガス相互接続管

▶18日付け報道によれば, EU・西バルカン首脳会合開催中に, ペトコヴァ・エネルギー大臣とセルビアのアンティッチ・エネルギー担当大臣は共同声明を作成し, 両国間の天然ガス相互接続管は遅くとも2022年までに運用可能とすべき旨一致した。共同声明の署名式には, トゥスク欧州

委員会議長の他、ユンカー欧州委員会委員長、プチッチ・セルビア大統領、ボリスフ首相が同席した。

◆ペトコヴァ・エネルギー大臣がアゼルバイジャンのシャー・デニス天然ガス田代表者と面会

▶18日、ペトコヴァ・エネルギー大臣は、アゼルバイジャンのシャー・デニス天然ガス田の開発会社代表と面会した。ペトコヴァ大臣は、ブルガリアとギリシャ間の相互接続管建設プロジェクトがブルガリア政府の支援により順調に進んでいることを強調しつつ、直近3年で1億1千万ユーロの政府保証を与えているとし、またEU基金からも3900万ユーロを受けているとした。また接続管供給、設計・建設及び技術提供のそれぞれの入札も進められているとした上で、2020年までに相互接続管の利用が可能になるとした。

▶シャー・デニス天然ガス田側代表者は、天然ガスの産出が2020年までには開始できるようになるとした上で、地域のエネルギー安全保障確保のため、アゼルバイジャン政府の支援も得られていると発言した。

(2) 運輸・インフラ

◆欧州復興開発銀行による西バルカン諸国でのインフラプロジェクト

▶2日、チャクラバルティ欧州復興開発銀行総裁は、ボリスフ首相との電話会談で、5月17日に行われるEU西バルカンサミットで提示される西バルカン諸国における同銀行によるインフラプロジェクトについて説明を行った。

▶同総裁は、ブルガリアがEU議長国として西バルカン諸国を取り上げることは重要であるとしつつ、西バルカン諸国の発展に向けたボリスフ首相の努力を後押しすることを約束した。また銀行として実施している多くのプロジェクトは西バルカン地域に集中していると発言した。

◆国際道路運送業によるEU指令改正案（モビリティ・パッケージ）への反対声明

▶8日、ブルガリアの道路運送業の代表者はボリスフ首相と面会し、ブルガリア政府はEU指令改正案に対するブルガリアの道路運送業者の立場を支持する旨発表した。モスコフスキ運輸・IT通信大臣は、ブルガリアの立場は同パッケージに対するフランス等の立場とは異なる旨明らかにし、ボリスフ首相は、本件についてマクロン仏大統領やメルケル独首相と会談を行う予定であるとした。▶モスコフスキ大臣は、現在のパッケージ案では、運転手が自宅に戻って休息を取る必要があること、休息時間の長さが決められていること、またトラックに整備している寝台で休息を取ってはならないことがブルガリアにとって問題であるとしている。

▶また同大臣は、EUのワーキンググループレベルでの交渉は難航しており、フランス代表が交渉を拒否していることを明かしている。ブルガリアのトラック業界は一致団結しており、ボリスフ首相が業界の立場を支持していることに感謝している。ブルガリアのトラック運送産業はGDPの15%を生み出しており、今次改正によりブルガリアはEU加盟国の中で最も影響を受ける国であると主張している。

▶また17日には、ブルガリア全土から100台以上のトラックがEU・西バルカン首脳会合開催中のソフィアに集合し、市内主要道路で抗議活動を行い、本件問題がトラック運転手にとって死活的問題であることを訴えた。

◆ブルガリアの鉄道改修事業

▶17日、モスコフスキ運輸・IT通信大臣は、西バルカンの運輸プロジェクトを議論するフォーラムの場において、ブルガリアが優先的に必要としている鉄道の建設を2030年までに完成させるには約43億2千万ユーロが必要となっていると発言した。同フォーラムには西バルカン諸国の担当大臣、関係者が出席したほか、世界銀行、欧州投資銀行等から出席者が参加した。

▶モスコフスキ大臣は、約43億ユーロのうち、41億4700万ユーロはTEN-T（欧州横断運輸ネットワーク）の主要部分に使われ、1億7300万ユーロはTEN-Tの延長部分であるカルノバットとシンデル間123キロの改修に利用されるとのことであり、この改修はヴァルナとブルガスという海港をつなぐために不可欠なものになるとの見解を示した。

▶重要なプロジェクトとして、ヴィディンーソフィア間の改修に23億1千万ユーロの投資が必要であるとしつつ、またオリエント・東地中海急行回廊の一部となっているソフィアークラタ間の改修にも12億2千万ユーロが必要となっているとした。またソフィア（ヴォルヤック）からセルビア国境に向けての鉄道改修は欧州理事会で重要案件と認識されているが、1億3200万ユーロが必要であり、マケドニア国境に向けての鉄道改修も4億7700万ユーロが必要としている。

◆中国によるプロヴディフ空港のコンセッションによる投資

▶19日付報道では、モスコフスキ運輸・IT通信大臣が、プロヴディフ空港のコンセッション権を獲得した中国のHNAグループとプロヴディフ空港投資会社からなるコンソーシアムの代表者と面会し、プロヴディフ空港では当初想定した2倍の投資が行われることが明らかになった。当初の計画では、35年の間に約7908万ユーロが投資されることになっていた。

▶コンソーシアムの代表者は、モスコフスキ大臣に対し、空港開発計画の概要を説明した上で、プロヴディフ空港を1つの旅客ターミナルと2つの貨物ターミナルを持つ重要な運輸ハブ施設とする計画であり、滑走路も延長強化され、航空機のメンテナンス施設も新設されるとした。イスラエルのメンテナンス会社が参入に関心を示しているとのことである。

▶モスコフスキ大臣は、ソフィアープロヴディフーヴィレングラッドの鉄道路線からプロヴディフ空港に繋げる引き込み線の建設を来年開始する

予定であることに言及し、またプロヴディフ空港周辺道路の整備も約束した。

◆ヘムス高速道路の完成は2024年目処

▶28日、ナンコフ公共事業大臣は、地方自治体の代表者との会合に出席し、ヘムス高速道路の建設は2024年初頭までに終わるとの見通しを示した。ヤブラニツァからテテヴェン間の10キロは今後18か月以内に建設が終了、またボアザとプレーベン間の52キロについてはエンジニアリング作業の最終段階にあるが、2020年には開通する予定である。プレーベンからヴェリコ・タルノヴォとルセ間のジャンクションに至る85キロについては、本年8月に入札が開始され、2021年に開通する予定である。

▶またヴェリコ・タルノヴォとルセ間の133キロの道路の建設に関する入札は、今年中に行われる予定であり、2022年に完成する見込みである。

(3) その他

◆特定の職種に政府支援を検討

▶4日報道によれば、教育科学省は29の職種（例：食品産業管理者、家畜生産業、道路建設業、船舶電気技師等）については職業教育を受ける際に政府による支援が得られることになると発表した。同省はまた54の職種（例：建築業、製パン・製菓、旋盤工、溶接工、研究所助手、機械技師等）では今後5年間で専門家が不足することが見込まれているとし、これらの職種も政府支援を受けることになるとした。本件は6月4日以降パブリックコメントに付されることになっている。

◆夏の季節労働者として外国人労働者を雇用

▶10日、アンゲルコヴァ観光大臣は報道陣に対し、本年夏の観光部門の労働力としてウクライナ、ベラルーシ、モルドバから最も多くの季節労働者を求めていると明らかにした。またフィリピン、タイ、インドネシアからも関心が寄せられているとした。

▶同大臣はまた、昨夏は非EU諸国から約3400人の季節労働者を受け入れたが、今年は5400人の労働者を期待しているとした。同大臣及び

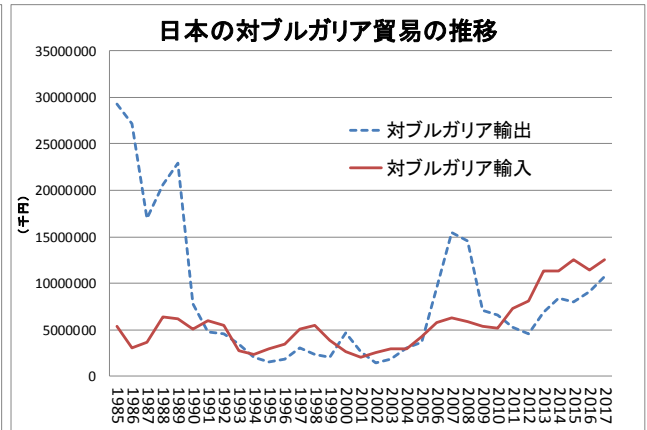
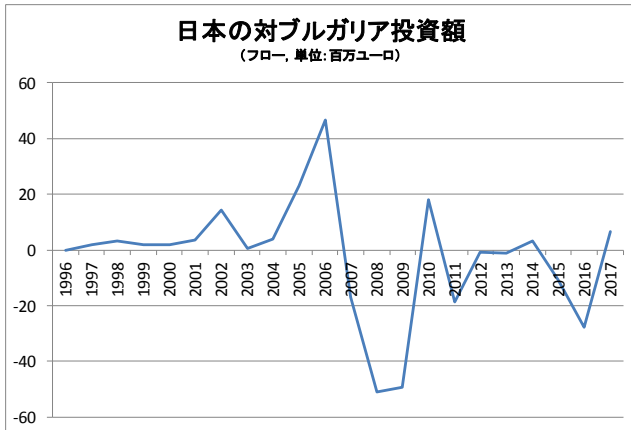
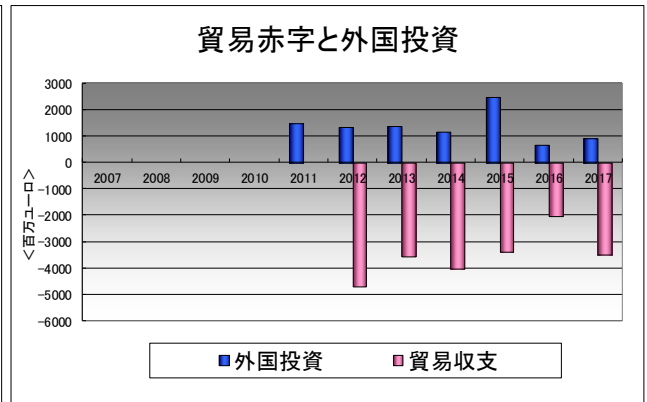
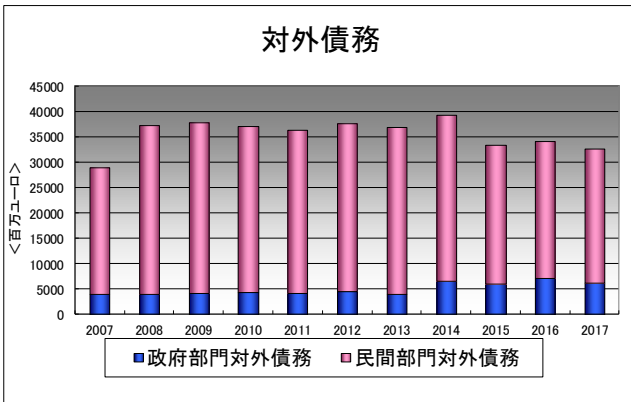
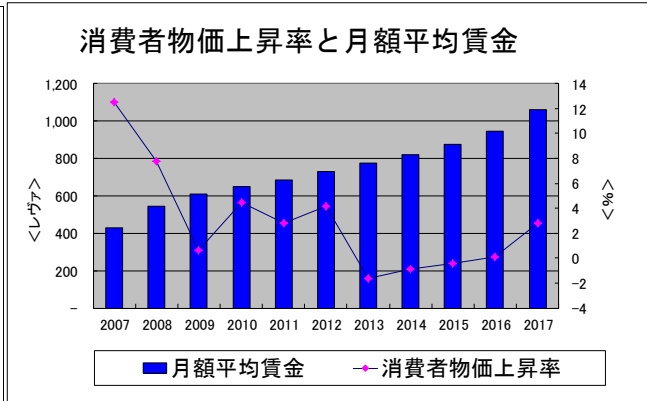
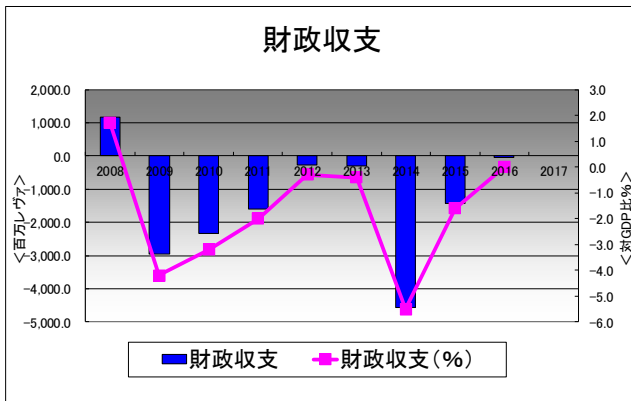
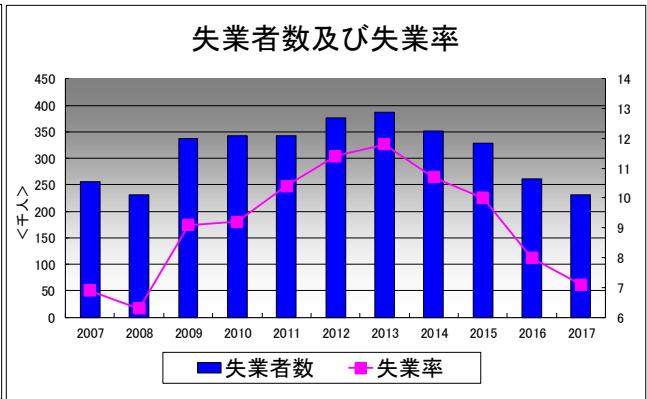
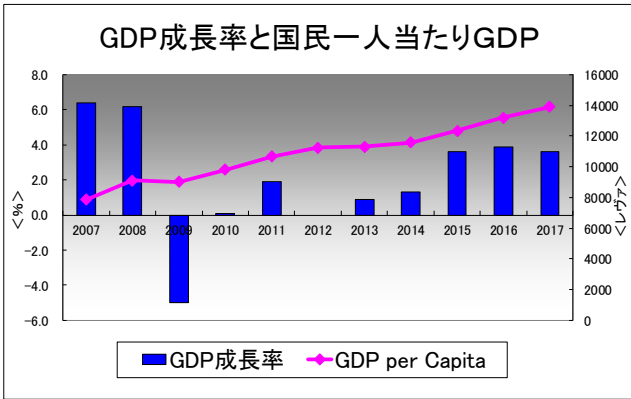
ザハリエヴァ外務大臣は、非EU市民の季節労働者のための特別ビザとして、180日（通常は90日）の滞在を可能とする提案を行うこととした。

ブルガリア内政・外交の動き（5月）

在ブルガリア大使館

1（火）	
2（水）	
3（木）	★ファン・デア・ベレン・オーストリア大統領のブルガリア訪問
4（金）	★ブルガリア・オーストリア・ルーマニア大統領会合の開催（於：ルセ） ★非公式EU国防大臣会合の開催（於：ソフィア）
5（土）	
6（日）	
7（月）	
8（火）	
9（水）	●歴史・教育問題に関するブルガリア・マケドニア学際的専門合同委員会の創設
10（木）	☆ボリスフ首相の「カール大帝」国際賞授与式出席（於：アーヘン）
11（金）	
12（土）	
13（日）	
14（月）	
15（火）	★ラホイ・スペイン首相のブルガリア訪問（－16日） ●ガザ地区の状況に関するブルガリア外務省声明の発出
16（水）	★非公式EU首脳夕食会の開催（於：ソフィア）
17（木）	★EU・西バルカン首脳会合の開催（於：ソフィア）
18（金）	
19（土）	
20（日）	
21（月）	☆ラデフ大統領の訪露（－22日）
22（火）	
23（水）	☆ザハリエヴァ副首相兼外務大臣のG20外相会合出席（於：ブエノスアイレス） ☆ザハリエヴァ副首相兼外務大臣と王毅中国国務委員兼外交部長との会談
24（木）	
25（金）	☆ボリスフ首相のローマ及びバチカン訪問
26（土）	☆ボリスフ首相のクロアチア訪問 ☆ボリスフ首相のウクライナ訪問
27（日）	
28（月）	★ハン中国農業部部長のブルガリア訪問
29（火）	
30（水）	☆ボリスフ首相の訪露
31（木）	

ブルガリア経済指標の推移 (出典：国家統計局，中央銀行，財務省（日本）貿易統計)



ブルガリア主要経済指標 (出典: 中央銀行)

< GDP成長率と国民一人当たりGDP >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Q1			
GDP成長率 (%)	1.9	0.0	0.9	1.3	3.6	3.9	3.6	3.5			
GDP per Capita (BGN)	10,673	11,229	11,310	11,577	12,339	13,206	13,939				

< 財政収支 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Q1			
財政収支 (million BGN)	-1,589.7	-262.5	-296.3	-4,560.7	-1,420.7	208.8	920.3				
財政収支GDP比 (% of GDP)	-2.0	-0.3	-0.4	-5.5	-1.6	0.2	0.9				

< 失業者数及び失業率 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Jan	Feb	Mar	Apr	May
失業者数 (千人)	342	376	386	351	329	261	232	237	231	222	211	200
失業率 (%)	10.4	11.4	11.8	10.7	10.0	8.0	7.1	7.2	7.0	6.8	6.4	6.1

< 消費者物価上昇率と月額平均賃金 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Jan	Feb	Mar	Apr	May
消費者物価上昇率 (%) (前期比)	2.8	4.2	-1.6	-0.9	-0.4	0.1	2.8	0.3	0.3	-0.3	0.4	0.3
月額平均賃金 (BGN)	686	731	775	822	878	948	1,060	1075	1049	1107		

< 対外債務 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2017 Jan	Feb	Mar	Apr
政府部門対外債務 (million EURO)	4,205.0	4,578.9	4,062.2	6,552.0	5,989.5	7,228.8	6,327.3	6,721.3	6,243.5	6,224.2	6,222.7
民間部門対外債務 (million EURO)	32,089.8	33,134.6	32,873.4	32,786.4	27,506.6	26,990.6	26,981.5	27,075.4	27,102.3	27,065.7	26,654.2

< 対内直接投資と貿易収支 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Jan	Feb	Mar	Apr
対内直接投資 (million EURO)	1,476.3	1,320.9	1,383.7	1,160.9	2,475.9	1,079.6	950.1	345.5	342.9	108.5	113.0
貿易収支 (FOB-CIF) (million EURO)		-4,688.9	-3,556.6	-4,020.7	-3,374.3	-2,055.3	-3,531.3	-445.0	-380.4	-349.6	-409.4
輸出 (FOB) (million EURO)		20,770.2	22,271.5	22,104.9	22,982.3	24,126.0	26,713.2	2,140.2	1,957.7	2,273.1	2,133.5
輸入 (CIF) (million EURO)		25,459.1	25,828.1	26,125.7	26,356.6	26,181.3	30,244.6	2,584.1	2,338.1	2,622.6	2,542.9